

内視鏡学会認定施設
消化器内視鏡センター

苦痛のない内視鏡診療で 消化器疾患を早期発見・治療！

日本人の2人に1人はがんに罹ると言われており、その死亡原因の第2位が大腸がん、3位が胃がん（1位は肺がん）だ。早期発見・治療でがんは治る時代！そこで**消化器がんの早期発見に有力で確実、かつ苦痛のない内視鏡検査**について、**検査実績年間7,000件超**の内視鏡学会認定施設・西の京病院消化器内視鏡センターで塩谷淳先生に話をうかがった。



最前線医療を行く

内視鏡検査のメリット

胃カメラ

バリウム検査では見つからない凹凸のない食道がん・胃がんを早期に発見可能。**ピロリ菌の有無も識別でき、胃がん罹患リスクの予測と予防に役立てられる。**

大腸カメラ

大腸ポリープ切除が可能。大腸ポリープは「前がん状態」ともいえる病態であり、欧米からの報告では、発がんに関わると思われる大腸線種性ポリープを全て切除することにより、76～90%の**大腸がん抑制効果**が得られたとされている。

検査だけでなく治療も兼ねられ、必要以上の生検もない！

受診者の声

- 内視鏡への抵抗がなくなりました。
- 飲み込む時も難なくスツといけました。
- 寝ている間に終わりました！
- 麻酔なしの検査はストレスだったが、これなら楽！



「胃がん・大腸がん共に、**早期発見によって内視鏡治療・完治が可能**です。つまり、内視鏡検査中に患部を切除するので、改めての開腹不要・臓器温存ができるという事です」と先生。積極的な検査が望まれる。

内視鏡検査で早期がんの 治療・完治も

新型コロナウイルスのパンデミックにより、医療機関の受診に消極的な人が増え、**がんの発見が遅れている**のではないかと懸念する報告がある。一部の統計では2020年～2021年でステージⅠの胃がんが減少、ステージⅣは変化なしとある。これは自覚症状がない初期がんが検査控えにより発見されなかったことを示すのでは、というものだ。

新型コロナウイルス（外出自粛）で 検査控えのツケ

高い精度と安全性、痛みを 伴わない鎮静下内視鏡検査 胃と大腸の同日検査も可

胃カメラ・大腸カメラ共に、より正確な診断に至るためには、特殊光を当てて**拡大ズーム機能による画像強調観察**が有用だが、スコープ径が太くなり、身体的負担が大きい。そこで同院では、患者の精神的・身体的負担を取り除くため鎮静下での画像強調観察を行っている。

最新鋭のハイビジョンカメラを用いた鎮静下内視鏡検査は、**精度も高く、私たち医師は従来よりも短い時間でよりの確かな診断ができます。**

鎮静下とは、**麻酔を使った状態**のことで、その麻酔は効きが早く、醒めた後はすっと消えるタイプ。リカバリールームで休息、覚醒後の帰宅となるので車で来院した人でも安心だ。また**胃と大腸の同日検査**（要日程調整）もでき、1回の来院で済む。

検査室の拡大とリカバリールーム完備、 検査待機室の充実



下剤処置中の検査待機室

検査室とリカバリールームの増設で、検査の流れがよりスムーズ、プライバシーも配慮

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病など）についてもご相談ください！

検査担当医は10年以上の経験を持った内視鏡専門医。主に画像強調観察可能なスコープを用い、鎮静下で検査を行います。受診者の苦痛もなく、我々も診断に集中できます。



副院長・消化器内科部長
塩谷 淳 医師
SHIOYA MAKOTO



消化器内視鏡センター長
松木 信之 医師
MATSUKI NOBUYUKI



西尾 昭宏 医師
NISHIO AKIHIRO



川端 一美 医師
KAWABATA KAZUMI

内視鏡検査 ●診療：月曜～土曜の午前・午後
●予約専用ダイヤル TEL.0742-35-1215